

情報モラル教育実践授業報告書

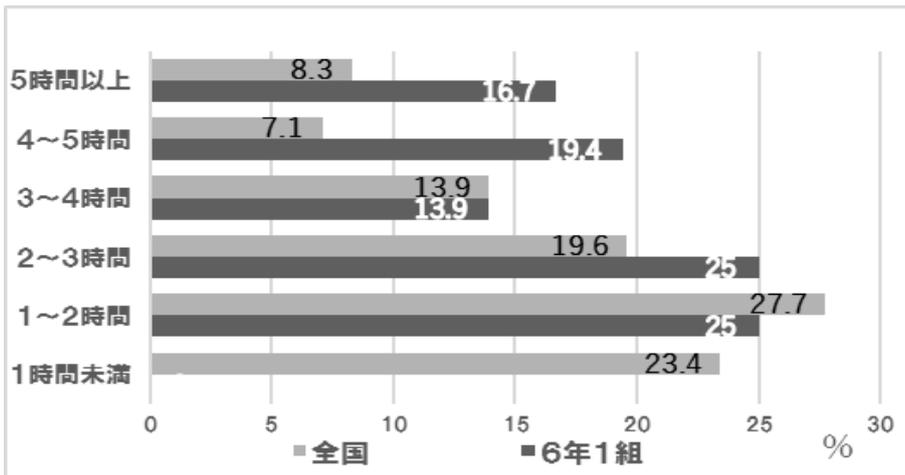
対象学年	小学校 6年生
領域	特別活動
指導項目	インターネットの安全利用

情報モラル指導モデルカリキュラム (http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html)			
指導分野	安全への知恵		
コード	f3-1	指導事項	健康を害するような行動を自制する

授業前の児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・1日当たり3時間以上利用している児童が50%おり、全国の小学6年生の利用状況29.3%（令和元年度）を大きく上回っている。 ・利用時間の長さが自分の生活に与える影響について理解していても、それを改善できていない。 ・規則正しい生活が維持できず、寝不足気味である児童が数名いる。
児童の心理的成長過程に応じた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットやゲームが与える影響について考えさせるために、脳への影響や、スマホなどの利用時間とテストの正答率との関係に関する資料を提示する。 ・子どもたちにも認知されているネット・ゲーム依存症やスマホ首などの言葉を取り上げる。
期待される児童の変容（ねらい）	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を振り返り、問題点を見つけ、自分に合ったルールを考えることができる。 ・決めたルールを継続して守ることができる。
児童の変容を促すための授業の工夫（ポイント）	<ul style="list-style-type: none"> ・テストの点数や体育の記録など、日頃から平均を意識した発言をする児童が多いため、全国の利用状況とクラスの結果を見比べさせる。 ・適切な利用に関する意識を持続させるため、ワークシートを工夫する。
利用するコンテンツ等（サイトのアドレス）または資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・香川県教育委員会「ネット・ゲーム依存予防対策学習シート」 https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimu/seitosidou/Informationmorals/gakusyusheet.html
授業の成果	<p>ゲーム・ネット依存の未然防止については家庭の協力が必要不可欠である。更なる家庭の協力を得るためにも、自分のルールだけでなく、家族みんなで利用について考える機会を設け、家庭のルールを決めるような授業を展開することもできると考える。</p>
授業の課題と改善案	<p>児童の情報モラルの意識をより向上させるために、継続的かつ計画的に指導に取り組みたい。</p>

<事前アンケート>

【平日1日あたりのゲーム・スマホの利用時間】



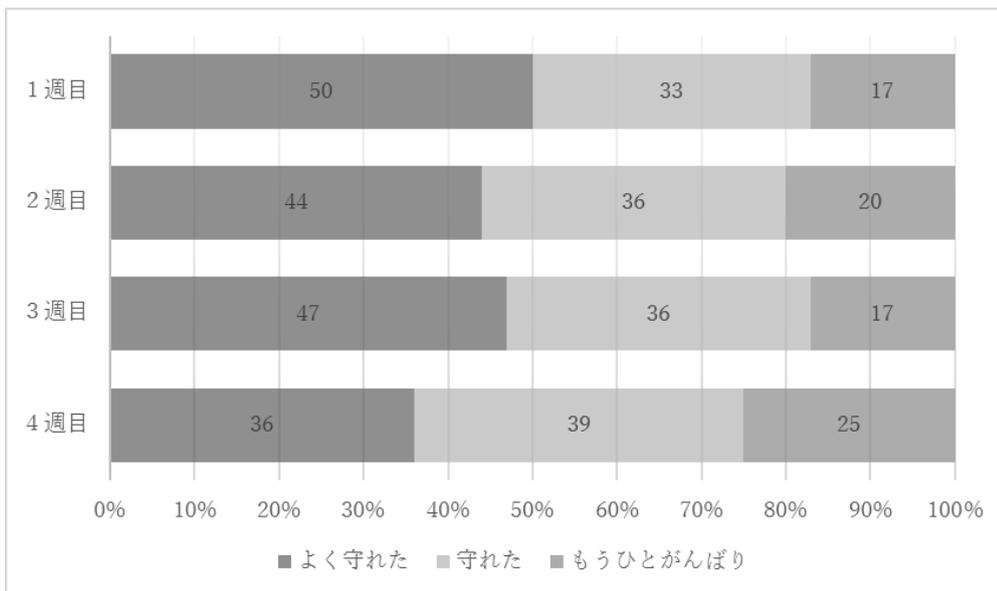
・平日一日に3時間以上利用している児童が半数おり、全国の小学6年生の利用状況と比較しても長い

<児童が授業で考えたルール>

- ・勉強に集中するために、自分の部屋にゲームを置かない (成績が下がるから)
- ・視力が下がらないようにするために、利用時間を30分までにする
- ・睡眠不足を防ぐために、夜9時になったら電源を切る

<事後アンケート>

【ルールを守れているか】



情報モラル教育の授業実践評価

児童について	児童の 興味関心の度合い	1. 低 2 3 4. 高 ----- ----- ----- ----- 理由・感想等 自分たちと全国の6年生の利用状況を比べることで、それぞれの児童の問題意識が明確になり、意欲的に取り組んでいた。
	児童の理解度	1. 低 2 3 4. 高 ----- ----- ----- ----- 理由・感想等 ネット・ゲームの使い過ぎによる影響を考えたり、資料から読み取ったりすることができていた。
	児童の 変容の度合い	1. 低 2 3 4. 高 ----- ----- ----- ----- 理由・感想等 日が経っても、「よく守れた」や「守れた」の割合が高かった。
授業について	事前準備の難易度	1. 難 2 3 4. 易 ----- ----- ----- ----- 理由・感想等 ワークシートは、自由記述のスペースが確保されていれば十分であり、資料もネット上にあるものを活用すればよい。
	指導者にとっての 授業展開の難易度	1. 難 2 3 4. 易 ----- ----- ----- ----- 理由・感想等 児童自身にゲーム・スマホについて経験や知識が多いため、スムーズに授業を展開できる。
	授業の「ねらい」の 達成度	1. 低 2 3 4. 高 ----- ----- ----- ----- 理由・感想等 それぞれが抱えている利用に関する問題点に対して、「何のために」を意識したルールをつくることができた。
	指導方法の 効果の度合い	1. 低 2 3 4. 高 ----- ----- ----- ----- 理由・感想等 「もうひとがんばり」の評価をした児童の保護者のサイン欄に「がんばれ」というメッセージが書き込まれ、翌週は「守れた」に改善している児童がいた。
<p><授業の成果></p> <p>クラスと全国の利用状況を比べることで、それぞれの児童の問題意識が明確になり、自分に合ったルールをつくることができた。また、定期的にルールが守れているかを振り返らせることで、適切な利用に関する意識を一定期間持続させることができた。</p>		

情報モラル教育の授業実践例

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント
導 入	12 分	<p>1 ネットやゲームなどの利用状況について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事前アンケートとクラスの集計結果、全国の状況を見比べて気付いたことを発表しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国の6年生よりも利用時間が長い。 ・ ゲームや動画視聴の利用が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前にアンケートに取り組みさせておく。 ○ 利用状況を客観的に振り返るためにクラスと全国のデータを提示する。 ○ 利用時間が増えたことによって睡眠時間や家族で過ごす時間が減っていることに気付かせる。
展 開	28 分	<p>2 ネットやゲームが与える影響を考える。</p> <p>(1) ネットやゲームが与える影響について考え発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ネットやゲームの利用時間が長いことは、あなたにどんな影響を与えるでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 睡眠不足になる。 ・ ケンカなどのトラブルが起こる。 ・ 家族との時間が減る。 (2) 資料から、ネットやゲームの使い過ぎによる影響について知る。 ○ 資料から、どんな影響を与えることが分かるでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 視力や体力が低下する。 ・ 食事や睡眠が不規則になる。 ・ 利用時間が増えると、テストなどの正答率が下がる。 <p>3 ネットやゲームの利用について考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ネットやゲームを利用するときに気を付けることを考えましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長時間利用しないようにする。 ・ 夜遅くまで利用しないようにする。 ・ 使う場所を決めておく。 <p>4 今後の利用について考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 今後の利用について考え、ルールを決めましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族で過ごす時間を大切にするために利用時間を1日1時間にする。 ・ 利用時間を短くするためにスマホはリビングで使う。 ・ 利用しすぎないために保護者にフィルタリングを設定してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートに書かせてから発表させる。 ○ 脳への影響や、スマホ等の利用時間と正答率との関係に関する資料をテレビに映す。 ○ ゲーム依存症についての説明や図、グラフを提示、ネットやゲームの与える影響について気付かせる。 ○ ワークシートに書かせ、発表させる。 ○ 友達の見解でよいと思ったものを書き足させる。 ○ ワークシートに書かせ、発表させる。 ○ 何のためにそのルールを設定するのかという目的を大切にさせる。
ま と め	5 分	<p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今日決めたルールを守り、ネットやゲームと付き合っていきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ネットやゲームとの付き合い方を見直し、自分で決めたルールを守っていくことを確認する。

情報モラル教育を広げるための方策と課題

情報モラル教育を広げるための実践	<ul style="list-style-type: none">・授業実践の様子を他の先生方に御参観いただき、協議会を行った。・授業実践の様子をホームページに掲載した。・6年生の学年だよりや、生徒指導担当から長期休業前に児童に配付する「生活のきまり」に、スマホ・タブレット等の利用についての注意を促す文面を載せた。
情報モラル教育を広げるための課題	<ul style="list-style-type: none">・御参観いただいたり、協議会を行ったりするだけでなく、その先生方にも実践していただくことが必要。・保護者の意識も高めるために、学校公開日等で取り扱うとよい。・ゲームやスマホの利用が低年齢化していることもあり、どの学年でも取り上げ、継続的に取り組むことが大切。